

# 総合情報学部 システム情報学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 1. 教育課程の編成及び特色

システム情報学科のカリキュラムは、専門教育科目を学ぶために必要となる基礎的な能力を修得するための教養教育科目群、専門性の高い知識と技術を習得するための専門教育科目群から構成されます。これら科目群により情報化社会に貢献できる高度 ICT 技術者としての基礎知識・技能、応用知識・技能を培うことを目指します。また、育成すべき人材像に対応したコンピテンシーを設定し、コンピテンシーに関連付けた科目を体系的に編成することにより、各科目とディプロマポリシーとの整合性を理解しやすくなります。更に、科目間の関連は、内容と難易度に基づきナンバリングして表現します。

## 2. 教育内容

### （1）教養教育

教養教育が定める人材像の育成を実現するために「基礎教育科目」と「人間教育科目」から構成されるカリキュラムを定め、これらをバランスよく学ぶことにより、ディプロマポリシーにおける国際感覚、モラル、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、生きるために知恵を持つ人材の育成を行い、本学の特色ある教養教育の目的を達成します。

#### ①「基礎教育科目」

日本語力、論理的思考力、数的処理力、プレゼンテーション力、およびコミュニケーション力を育成するための科目を配置します。

#### ②「人間教育科目」

価値ある情報を見極める力、物事を幅広い視野からとらえる力、論理的思考力、主体的に行動する基盤となる体力、異文化の理解力、国際感覚、倫理観を育成するための科目を配置します。

### （2）専門教育

情報通信技術における分野に特化した高度な知識と技術を身に付けるために履修モデルとして領域を設定します。これにより、各分野における科目の重要性を認識させます。各科目では、演習・実習を繰り返すことにより、それらの知識・技術の定着を図ります。更に、ゼミナールやプロジェクト系科目により、修得した知識や技術をもとに、問題を発見し、解決案を提案できる能力、情報技術を使って分析を行い、結論に至る過程を論理的に説明できる能力、自分の考えをわかりやすく人に伝える表現力を持つ人材を育成します。

#### ①情報系専門科目

情報化社会を生きていくために必要とされる ICT 入門など基礎的技術から始まり、データベースなどの情報通信分野における主要技術、更には、人工知能などの社会的ニーズが高まっている最新技術までを修得可能な科目を配置します。また、4 年次に修得した知識や技術に基づき実践的な課題解決を行う科目である卒業論文を配置します。

#### ②学部横断科目

北海道情報大学の学生として共通して身につけるべき知識・技術内容を学習すると共に、異なる知識背景を持つ学生とコミュニケーションを取りつつ問題解決を行うプロジェクトトライアルによって、実社会において技術者として円滑に活動できる能力を身に着けるための科目を配置します。

#### ③経営系専門科目

企業情報システムを構築する際には、ビジネス分野における ICT 活用や経営戦略を理解していることが必要となります。このような知識を身につけるための経営学系科目を配置します。

#### ④教職系専門科目

教職「情報」（高校）および教職「数学」（中学、高校）の免許を取得するために必要な知識、スキルを修得するための科目を配置します。

## 3. 教育方法

教育の方法については以下のように定めます。

- ① 初年次教育科目を含む「基礎教育科目」は、1 年生を対象とし、グループワークや少人数で行うアクティビティ・ラーニングを行います。また、初年次教育科目では、タイムマネジメント、倫理、心と体の健康、クリティカルシンキングの導入なども行います。タイムマネジメントでは、本学が構築した「週ごとの時間管理システム」を活用します。

- ② 専門科目の知識やスキルを確実に身に付けるために、演習や実習を組み合わせ知識の定着を図ります。また、科目の性質に応じて、グループワークを取り入れ、知識のより深い理解ができるようにします。また、ゼミナールや卒業論文においては、アクティブ・ラーニングの考え方に基づき、問題発見、問題解決のためのグループ学習、PBL、プレゼンテーションを取り入れ、「自分で問題を発見し、異なる意見の人達と議論し、問題解決を図る」という主体性を育む教育をおこないます。

#### 4. 学修成果の評価

学修成果は、各科目における学習目標に対する到達度を、小テスト、定期試験、レポート、実習課題などを通して評価し、合格したものに対して所定の単位を付与します。